

検討課題の整理による論点

1 コミュニティ協議会への新たな参加者の確保や人材育成について

- ① コミュニティ協議会の閉鎖性を開拓するため、運営委員を各活動団体等に担ってもらうことについて

○コミュニティ協議会の運営委員が固定化しており、それがコミュニティ協議会の閉鎖性につながっている側面がある。

⇒具体的な方策として各活動団体やマンション管理組合等に、運営委員を担ってもらうことについてどう考えるか。また、どのような効果があるだろうか。

- ② 新たな人材を取り込みやすくする仕組みの1つとして、運営委員の定年制・任期制を導入することについて

⇒1-①と同様に、運営委員の固定化を防ぎ、新たな人材を取り込みやすくする仕組みの1つとして、運営委員の定年制もしくは、任期制を導入することについて、どう考えるか。また、それ以外にどのような方策が考えられるか。

- ③ こどもの保護者を対象とした、コミュニティづくりの新たな担い手となる人材を育成するための仕組みづくりについて

○コミュニティセンターやコミュニティ協議会が、今まで以上に地域に開かれ、地域コミュニティの核となっていくためには、新たな人材を取り込みやすい環境づくりや人材の育成が重要となる。

⇒そのため、地域コミュニティとの接点が比較的多い未就学児から小中学校の子どもの保護者の参加を促し、担い手へ育成していくための仕組みづくりについて、どのようなものが考えられるか。

- ④ コミュニティ協議会や行政が、コミュニティセンターの運営やコミュニティ協議会の担い手として、地域のキーパーソンをスカウトする役割を担うことについて

○1-③にある新たな担い手を、定期的かつ継続的に育成していくための仕組みを支えるためには、地域の人材事情・人的ネットワークに精通した者が、主体的に人材発掘を担うことが重要である。

⇒そのため、行政またはコミュニティ協議会が、地域のキーパーソンをスカウトする役割を担うことについてどう考えるか。

2 コミュニティセンターの機能と管理・運営のあり方について

① コミュニティセンターが、各活動団体の活動拠点としての機能を持つことについて

○コミュニティセンターと各活動団体の関係を深めるとともに、利用者との交流のきっかけを生み出すことは、コミュニティセンターの本来的な機能である。一方で、各活動団体においては、活動拠点の確保が課題となっている。

⇒それらの解決策として、コミュニティセンターが各活動団体の拠点機能を持つことが考えられるが、その実現性や有効性についてどう考えるか。

② コミュニティセンターが、親しみやすく立ち寄りやすい「多世代の居場所」としての機能を持つことについて

○多くの世代が気軽に立ち寄れる空間は、コミュニティセンターに期待される人と人をつなぐ役割を果たす上でも重要になると考えられる。

⇒長期的な視点も含め、今後、コミュニティセンターは、サロンのように、気軽に立ち寄りやすい「多世代の居場所」としての機能と空間を提供すべきか。また、その際に問題になることは何か。

③ コミュニティセンターの行政サービス機能の付加について

○コミュニティセンターやコミュニティづくりに関する認知度が低く、閉鎖性を感じる市民もいて、コミュニティセンターが身近な施設になっていない面がある。

⇒そのため、行政サービス機能を付加することでより市民の来所を促し、利用者増につなげることについて、どう考えるか。また、具体的な行政サービスとしてどのようなものが考えられるか。

④ コミュニティセンターの窓口サービスの向上について

○現状、一部のコミュニティセンターの窓口サービスについて、良好で均質な窓口サービスが提供できていないといった問題がある。

⇒市民に気持ち良く利用してもらえるような窓口サービスが提供できるよう、サービスの質を向上させるためには何が必要か。（※2-⑤管理・運営のあり方とも関連）

⑤ コミュニティセンターの管理と運営のあり方について

⇒2-④に関連して、そのような現状から、コミュニティ協議会はコミュニティづくりに特化し、窓口運営や施設管理は公募した事業者に任せる方がいいのではという意見があるが、どのようなメリット・デメリットが考えられるか。

また、自主三原則の見直しを求めるパブコメが多いが、自主三原則はコミュニティづくりに関するもので、指定管理には及ばないと条例では解釈できるがどう考えるか。

⑥ 指定管理者であるコミュニティ協議会に対する外部評価・検証のあり方について

⇒指定管理者であるコミュニティ協議会に対して、外部評価を導入することにより、その管理運営方法の検証を行い、より良いものに改善していくための方法について、どう考えるか。

3 コミュニティセンターと学校との連携のあり方について

① コミュニティ協議会の区域と小学校区の同一化のあり方について

○公共施設の再編や再配置の議論のなかで、学校機能の複合化も検討されており、その一つとして、学校にコミュニティ機能を持たせることが考えられている。
○また、一部のコミュニティ協議会の区域が重複していることから、コミュニティセンターを核とした区域の意識が浸透していないという現状もある。
⇒そのため、1-③の議論と関連して、将来的に小学校区とコミュニティエリアとの同一化を図ることについて、どう考えるか。

② コミュニティセンターと学校施設との併設の可能性について

○コミュニティセンターがさらに地域コミュニティと連携していくため、学校との連携を密にするという方向性は有効である。
⇒武蔵野市こどもたちにとって、コミュニティセンターをより身近な施設とするため、例えば、将来的な学校の建て替え等に合わせて、コミュニティセンターの併設を検討していくことについて、どう考えられるか。

4 コミュニティセンターと他活動団体との関係のあり方

① コミュニティセンターと現状、関係が希薄な他の活動団体との関係構築のあり方について

○現状、地域自主防災会やマンション管理組合等、一部の活動団体とコミュニティセンターの関係が希薄な状態となっている地域がある。
⇒防犯、防災、市民社協、青少協、マンション管理組合、学校関連団体（幼稚園・保育園・学校等）等との今後の連携に向けた関係構築の方策について、どう考えるか。